

73巻3号

2018年7月1日

YAA 天文会報

(7~9月号)

777号

〒226-0016

横浜市緑区霧が丘 4-1-7-402

正木 仁 方

Mail: masaki@e08.itscom.net

HP: <http://home.n03.itscom.net/yaa/index.html>

横浜天文研究会



撮影：山形幹夫

観望ガイド

正木

梅雨真っ盛りですが、今年の梅雨明けは早くなりそうとの予報です。しかし、そうなると夏から秋の水不足が心配されます。やはり近年、どうもおかしな気候ですね。

7月の天象ですが、28日の明け方に皆既月食があります。1月31日とはちがい、北日本では皆既が始まる前に月は沈んでしまい、関東では皆既になってすぐに沈んでしまいます。空が明るくなる時間帯でもあり条件は悪いですが、どのような色の変化を見せながら西空へ沈んでいくのか興味はあります。土曜日の朝方の現象ですから時間に余裕のある方はぜひ早起きを試みましょう。

7月からの三か月間の流星群です。7月は28日前後にみずがめ座 δ 流星群が活動していますが、ほぼ満月ですので条件は悪いです。31日にはやぎ座 α 流星群が極大になります。スピードが遅く火球が多いことで知られていますが、こちらも月の影響が大きいです。なお、31日は火星の大接近日でもあります。背景の星座はやぎ座です。

8月になると3大流星群のひとつ、ペルセウス座流星群が13日10時（JST）に極大となります。活動期間は7月中旬から8月中旬までと長い期間にわたります。今年は極大時に月明りの影響がなく条件は最高ですが、日本では極大時刻が昼間になってしまうのが残念です。ですが、13日未明から夜明けに向かって出現数が増えていく様子が見れるかもしれません。また13日から14日にかけての夜もかなりの出現があると思います。

9月は特に活発な活動をする流星群はありません。

ペルセウス座流星群は、真夏とはいえ明け方は夜露もおり冷え込みます。特に都会を離れた場所では、半袖などの軽装で観察しないようにしましょう。

惑星は、水星が6月末から7月15日までは日没時の高度が 15° を超えており見頃です。宵の明星・金星が明るく光っていますので、その右下を探すと容易に見つけられます。16日（海の日）には三日月が金星と並びます。

9月10日に、ジャコビニ・ジンナー彗星（21P）が近日点を通ります。この周期彗星が母天体となって活動するのが10月のりゅう座（ジャコビニ）流星群です。今年の流星群の活動に影響があるのでしょうか？

【7月例会】

7月28日（土）18時00分～19時30分

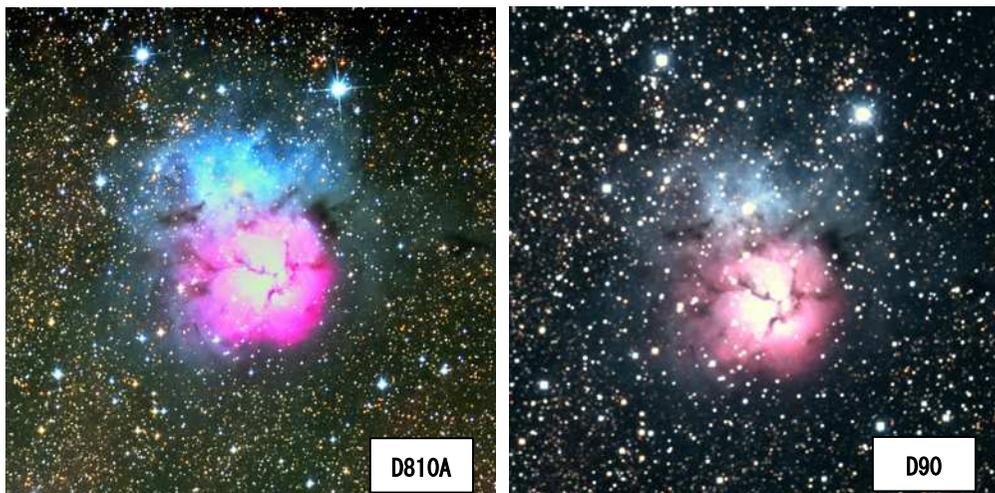
東戸塚地区センター2F 小会議室

カメラを忘れる

山形幹夫

雪が溶けて車で入笠山へ上がれるようになった4月下旬、喜び勇んで観測所へ向かいました。到着して愕然としたのはカメラバッグに主力カメラのニコンD810Aが入っていない。忘れることもあるんですねえ。そのまま坊主で帰るのも勿体無いのでいつもスペアに入れてあるニコンD90（赤外改造品）で撮影を行いました。皆さんもご存知のように近年の撮像素子や画像エンジンの進歩は早く、ちょっと前のカメラでは写りが見劣りすることは良くある話。下の画像は両方ともタカハシのε-180EDを使用して撮影、RAW画像で保存し、数枚の画像をコンポジットしたものをトリミングによりM20三裂星雲の部分を取り出したものです。左がD810A、右がD90です。D810Aの撮像素子はC-MOSで、D90はCCDです。CCDが悪いことはありませんが、デジカメに使用するレベルでは画像エンジンの進歩と併せ、写りの差は歴然とあるようです。微光星や星雲の淡い部分の写り、発色に着目ください。帰宅後、スペアのカメラをD90からD5500に入れ替えた次第です。

撮影日 D810A:2017年5月28日 D90:2018年4月21日 撮影地:入笠山



表紙の写真はカメラを忘れた翌日、友人が先に帰るといので借用したD810Aで撮影したものです。カメラだけではなく、PCとの接続ケーブルも忘れたため、ピント合わせはカメラのモニターで実施。200×拡大で実施したにも関わらず広角20mmレンズでもピントが甘いです。もはや撮像素子の進歩によりPCのスクリーン上に拡大した画像で確認しないとピントが甘いことが分かってしまうという事態になっているようです。

近年夜空は明るくなる一方です。観測室内も明るくなりました。皆PCを使用して撮影を行っているためです。フィルムカメラの時代にはこんなことはなかったですよ。表紙撮影日:2018年4月22日 画像4枚コンポジット 入笠山

太陽黒点

観測者：藤森 賢一（諏訪） 機材：8cm屈X67 15cm投影

日	2018年3月					2018年4月					2018年5月				
	N		S		全	N		S		全	N		S		全
	g	f	g	f	R	g	F	g	f	R	g	f	g	f	R
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	曇雨
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	-	-	-	-	雨	0	0	0	0	0	0	0	1	2	12
6	0	0	0	0	0	-	-	-	-	欠測	0	0	1	2	12
7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	雨
8	-	-	-	-	曇	0	0	0	0	0	-	-	-	-	曇
9	-	-	-	-	曇雪	0	0	0	0	0	-	-	-	-	曇雨
10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	12
11	-	-	-	-	欠測	-	-	-	-	曇雨	1	2	0	0	12
12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	欠測
13	-	-	-	-	欠測	1	3	0	0	0	-	-	-	-	曇雨
14	0	0	0	0	0	-	-	-	-	曇雨	0	0	0	0	0
15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
16	-	-	-	-	雨曇	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
17	0	0	0	0	0	-	-	-	-	曇	0	0	0	0	0
18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
19	-	-	-	-	曇	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20	-	-	-	-	雨	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0
21	-	-	-	-	雪	1	6	0	0	0	0	0	0	0	0
22	-	-	-	-	曇	1	8	0	0	0	0	0	0	0	0
23	0	0	0	0	0	1	8	0	0	0	-	-	-	-	雨
24	0	0	0	0	0	-	-	-	-	曇	1	2	0	0	12
25	0	0	0	0	0	-	-	-	-	曇雨	1	2	0	0	12
26	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	-	-	-	-	欠測
27	0	0	0	0	0	-	-	-	-	欠測	1	2	0	0	12
28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	曇
29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	欠測
30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	欠測
31	0	0	0	0	0						-	-	-	-	雨曇
平均	0.0		0.0		0.0	4.0		0.0		4.0	3.2		1.3		4.4

日月星の伝承を訪ねて (56)

横山好廣

信州の星 ③

●1981年8月11日松本市入山辺 赤羽得海氏(年齢不詳)

- ・アケノミョウジョウ、ヨイノミョウジョウ-----金星。
- ・ツトッコボシ-----昴星。
- ・ミツボシ-----オリオン座三星。
- ・シャアクボシ-----北斗七星。
- ・ノノサマ-----月の幼児語で、仏様はノノサマという。

- ・七夕-----六日朝、里芋の葉についている露を集めて墨をすり、最後にこの露で硯を洗った。七夕の短冊を木の間に張った縄に吊るすと注連のようであった。短冊には「天の川遠き渡りにあらねども 公が舟出は年にこそまで」・「鵲の渡せる橋のおく霜の 白きを見れば夜ぞふけにける」と、和歌等を書き、野菜と餡かけのホウトウを供えた。

七日、本祭り。

八日、川に短冊を流した。

星の名を尋ねると、「強いていうと、織姫はオンナボシ、彦星はオトコボシ」という回答であった。白鳥座を鵲に見做しているような話であったが、残念ながら星の名は伝わっていなかった。

*「天の川-----」は『万葉集』巻十に、「鵲の-----」は家持作で『新古今和歌集』巻第六冬歌や「小倉百人一首」に所収されている和歌である。和歌を短冊に書くという行為はいつ頃、どのようにして始まり、伝承されて来たのであろうか。それを木の間に張った縄に吊るすことは「道切り」をイメージさせるが、短冊を人形に置きかえると、菅江真澄が著した『遊覧記』の「伊那の中路」や「くめじの橋」に描かれている松本周辺の七夕の風俗を想起させる。なお、木の間に縄を張り短冊を吊るすことは、松本周辺の独特の習俗である。このような風景に初めて出会ったときは、とても驚いた。今になって思うと、八日の「本祭り」のなかみについて尋ねなかったことが、悔やまれてならない。

- ・月見-----十五夜、十三夜は秋蚕の時期で忙しく、月見をすることはなかった。でも、十日夜には収穫のお祝いをした。餅を搗いて丸く伸ばし(鏡餅)、一斗枡の中に入れ、大根やクワ・カマ等の農具も供えた。供えるための台には、餅を搗いた臼を使った。

*養蚕もしていた農家では、お月見の頃は仕事が集中し、忙しさのあまり月見どころではなかったということであろう。

- ・月待-----「オサヤサマ」といって、今は女性の無尽講になっていて、毎月二十三日に行われる。二十三日の月を待って、拝する風習はないということであった。

(つづく)

天象

相原 榮

7月

水星: 夕方の西北西天 前半は観望好期 $-0.0 \sim +2.5$ 等 かに \rightarrow しし座
金星: 夕方の西天で輝く 宵の明星 観望好期 $-4.1 \sim -4.2$ 等 しし \rightarrow おとめ座
火星: 宵に昇る 夜半過ぎ南中 $-2.2 \sim -2.8$ 等 やぎ座
木星: 夕方の南天 夜半に沈む $-2.3 \sim -2.1$ 等 てんびん座
土星: 夜半前に南中 夜明け頃沈む 観望好期 $+0.0 \sim +0.2$ 等 いて座

1日 未明の南天で月と火星の接近	20日 04h52m 半月(上弦)
6日 16h51m 半月(下弦)	21日 宵の南西天で月と木星の接近
7日 12h42m 小暑	23日 06h00m 大暑
13日 11h48m 新月(オーストラリアで部分日食)	25日 宵の南天で月と土星の接近
15日 夕方の西天低空で月と水星・金星が並ぶ	28日 05h20m 満月(日没直前に皆既月食) 未明の南西天で月と火星の接近
16日 夕方の西天で月と金星の接近	30日 20h みずがめ座 δ 流星群が極大の頃 やぎ座 α 流星群が極大の頃

8月

水星: 明け方の東天で高度を上げる $+2.5 \sim +4.7 \sim -0.5$ 等 しし \rightarrow かに \rightarrow しし座
金星: 夕方の南西天で輝く 宵の明星 $-4.2 \sim -4.4$ 等 おとめ座
火星: 夜半前に南中 夜明け前に沈む $-2.8 \sim -2.2$ 等 やぎ \rightarrow いて座
木星: 夕方南中 夜半前に沈む $-2.1 \sim -1.9$ 等 てんびん座
土星: 宵に南中 夜半過ぎに沈む $+0.2 \sim +0.4$ 等 いて座

5日 03h18m 半月(下弦)	18日 16h49m 半月(上弦) はくちょう座 κ 流星群が極大の頃
7日 22h31m 立秋	21日 宵の南西天で月と土星の接近
11日 18h58m 新月(ロシアなどで部分日食)	23日 13h09m 処暑 宵の南天で月と火星の接近
13日 10h ペルセウス座流星群が極大の頃	26日 20h56m 満月
17日 夕方の南西天で月と木星の接近	

9月

水星: 明け方の東天で高度を下げる $-0.5 \sim -1.8 \sim -1.0$ 等 しし \rightarrow おとめ座
金星: 夕方の南西天 宵の明星 $-4.4 \sim -4.6$ 等 おとめ座
火星: 宵に南中 夜半過ぎ沈む $-2.2 \sim -1.4$ 等 いて \rightarrow やぎ座
木星: 夕方の西天 21時頃沈む $-1.9 \sim -1.8$ 等 てんびん座
土星: 夕方南中 夜半前に沈む $+0.4 \sim +0.5$ 等 いて座

3日 11h37m 半月(下弦)	14日 夕方の南西天で月と木星の接近
8日 01h30m 白露	17日 08h15m 半月(上弦)
10日 02h 9月ペルセウス座 ε 流星群が極大の頃	20日 宵の南天で月と火星の接近
03h01m 新月	23日 10h54m 秋分
	25日 11h52m 満月